

J R 東海労申 1 1 号
2 0 1 8 年 8 月 1 7 日

東海旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 金子 慎 殿

J R 東海労働組合
中央執行委員長 木下 和樹

一連の異常気象と事故防止、その他安全に関する申し入れ

「大阪府北部地震」、激甚災害に指定された「西日本豪雨」を始めとして、専門家も「考えられない」という、これまでに例のない異常気象が続いている。そしてこの異常気象は交通機関にも大きな影響を及ぼしている。

この状況に鑑み以下の通り申し入れるので、基本協約第 238 条（3）に基づき経営協議会を開催すること。

記

1. 気象庁によると、大雨や短時間強雨の発生頻度は増加しており、一日の降雨量が 1 0 0 ミリメートル以上というような大雨の日数は長期的に増える傾向にある、とされている。このことは、「西日本豪雨」のような現象が J R 東海管内でも発生しうるということであり、それを前提に安全・事故防止対策を再考せねばならないと考える。会社の認識を明らかにすること。
2. 気象庁によれば、全国的に猛暑日や熱帯夜が増加している、とされている。実際、7 月 1 4 日頃より酷暑が続いている。
 - (1) レール温度上昇に伴う運転規制のあり方は現行で充分なのか明らかにすること。
 - (2) 熱中症による死者数が過去最高を記録した、という情報がある。また、熊谷で日本国内の過去最高気温（4 1 . 1℃）を記録している。乗客、社員の熱中症対策を強化することが必要と考える。会社の見解を明らかにすること。
3. 7 月 6 日から 7 日にかけて発生した輸送障害をめぐって、新幹線の職場では「指令の不手際で列車遅延が増大した」との声が上がっている。列車本数の増加、乗務員がクルー化、そして車掌の乗り組みの 1 名減に伴い J R 東海パッセンジャーズのパーサーが異常時対応をも担うことになったことから、今後は、指令の役割はますます重大となり、より高度な技量が求められると考える。
 - (1) 新幹線の職場であがっている声にたいする会社の見解を明らかにすること。
 - (2) 指令の技量を向上させるために会社が考えている対策をあきらかにすること。

以 上